

2023 第1回 京大本番レベル模試(文系)

採点基準

■現代文 採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 得点箇所(漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の欠落等)については、一つごとに1点減点する。尚、同一の誤字、送り仮名の誤りの繰り返しについては、1点だけの減点でよい。

□ 現代文 50点

問一 10点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○2点

B○1点

C○1点

D○2点

人間の言語構造と整合的に対応している外部現実から身を引き、心によって自己の内部に作り上げられ開

E○2点

F○2点

かれてくる、幻想の領域や想像力の自由領域という、外界や生物学的条件とは異質な現実と向き合っていく

G
こと。(10点)

■要素A「人間の言語構造と整合的に対応している」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「人間の」を欠く、また、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「外部現実から身を引き」…1点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

■要素C「心によって」…1点

- ・要素Eにあたるものが「心」によって作られるというニュアンスが読み取れれば可。

■要素D「自己の内部に作り上げられ開かれてくる」…2点

- ・「作り上げられ」と「開かれてくる」はいずれか一つに相当する説明があれば可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。「自分の心を内観する」などは1点。

■要素E「幻想の領域や想像力の自由領域という」…2点

- ・「幻想の領域」「想像力の自由領域」はいずれか一つに相当する説明があれば可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・単に「自由な領域」「自由領域」などは1点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「外界や生物的条件とは異なる現実と向き合っていく」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 文末表現は「…(という)こと・宗教の本質」という形が原則。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問二 8点

■形式上の不備

- ・ 文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○1点

B○2点

C○2点

人間は他の動物とは異なり、DNAに規定された生物学的な構造としての脳による認識から逸脱した自由

D○3点

E

な領域で、妄想や幻想を生み出す能力を獲得してしまったから。(8点)

■要素A 「人間は他の動物と異なり」…1点

- ・ 答案のどこかで人間と他の動物との対比が読み取れれば可。

■要素B 「DNAに規定された生物学的な構造としての」…2点

- ・ 「DNAに規定された」は欠いても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「脳による認識から逸脱した自由な領域で」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「妄想や幻想を生み出す能力を獲得してしまった」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「妄想」「幻想」のいずれか一つを欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 文末表現は「…から…ので…ため」といった形が原則。理由説明の答案の文末として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問三 10点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○2点 B○2点 C○3点

種としての人間の心のレベルに見出される無意識を通して、心の構造の歪みに苦しんでいる人間が、

D○3点 E (10点)

自分の力で無意識を再構成し作り変え、心を治していくということ。

■要素A「種としての人間の心のレベルに見出される」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「無意識を通して」…2点

- ・ユングが「無意識」に目をつけたことが読み取れば可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「心の構造の歪みに苦しんでいる人間」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。
- ・「精神疾患をかかえた患者」などは1点減点。

■要素D「自分の力で無意識を再構成し作り変え、心を治していく」…3点

- ・「無意識」は「心」でも可。「再構成」「作り変え」はいずれか一つがあれば可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 文末表現は「…(という・ような) こと」という形が原則であるが、ユングが目指していたことの説明として妥当な形であると判断できれば可。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問四 8点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○1点 B○2点 C○2点

一切の存在を生成する根拠として、四方に万遍なくエネルギーを放射している太陽を世界の中心に置き、

D○3点 その力が無の中から有の存在を生み出しているというもの。(8点)

■要素A「一切の存在を生成する（根拠）」…1点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

■要素B「四方に万遍なくエネルギーを放射している太陽」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「（太陽を）世界の中心に置き」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「その（＝太陽の）力が無の中から有の存在を生み出している」…3点

- ・ 「無が有を生み出す」とほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「世界観」を説明した答案の文末表現として妥当であると判断できれば広く許容してよい。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問五 14点

■形式上の不備

- ・ 文末表現は要素F参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○2点

B○3点

人間世界の価値論は等価値であり、貨幣を媒介とする等価交換によって経済システムが形成されているが、

C○2点

D○3点

宇宙空間では中心にある太陽が、死滅するまでありとあらゆる存在に無差別にエネルギーを供給し続け、そ

E○4点

F

うした価値の贈与に対する代価など要求しないから。(14点)

■要素A「人間世界の価値論は等価値であり」…2点

- ・ 「価値論」は「価値観」、「等価値」は「等価交換」でも可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「貨幣を媒介とする等価交換によって経済システムが形成されている」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「貨幣を媒介とする」を欠く場合は2点。
- ・ 「経済システム」に関する説明を欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「宇宙空間では中心にある太陽」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「(太陽は) 死滅するまでありとあらゆる存在に無差別にエネルギーを供給し続け」… 3点

・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・ 「死滅するまで」、あるいは「無差別に」に相当する説明のいずれかを欠く場合は2点。

・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「価値の贈与に対する代価など要求しない」… 4点

・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・ 「贈与」と「代価など要求しない」のいずれかを欠く場合は2点。

・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 文末表現は「…から…ので…ため」といった形が原則。理由説明の答案の文末として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問一 8点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○2点

B○2点

C○2点

文学に深い造詣を持つ鷗外の営為に触発されて文学者を志した青年たちが、様々な作品について論じ合っ

D○2点

E

いる姿を、鷗外が微笑ましく静観しているという**こと**。(8点)

■要素A「文学に深い造詣を持つ鷗外」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「(鷗外の)営為に触発されて文学者を志した青年たちが」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。
- ・「後続の芸術家」などは1点減点。

■要素C「様々な作品について論じ合っている姿を」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「鷗外が微笑ましく静観している」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 文末表現は「…(という)こと」という形が原則。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問二 8点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○2点

B○2点

C○2点

自分が提示する特異な様式の作品を理解できないどころか、その価値を否定して自分を排斥するような作

D○2点

E

家たちから距離を置き、孤立を甘受する鷗外の**虚無感**という**こと**。(8点)

■要素A「自分（＝鷗外）」が提示する特異な様式の作品を理解できない」…2点

・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・ 「特異な様式の作品」は「余人の到達しえない文学」のようは表現でもよい。これらに相当する説明を欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。
・ 単に「鷗外が優秀である」ということだけでは1点減点。

■要素B「その（＝特異な様式の鷗外作品の）価値を否定して」…2点

・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「自分（＝鷗外）」を排斥するような作家たちから距離を置き」…2点

・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

B 2点

C 2点

※要素BC（「マイナスを避ける」）は、「文学的感興を共有し、更なる深みへと競い合って歩を進める好敵手もいない」のような書き方（「プラスがない」）でもよい。

■要素D「孤立を甘受する鷗外の虚無感」…2点

・ 「虚無感」はなくても可。「孤立」「孤独」についてほぼ同じ説明がなされていると判断できれば可。
・ 「鷗外が独り味わっていた（時代に先んじてしまったが故の）孤独」などでもよい。
・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 文末表現は「…（という）こと」という形が原則であるが、「淋しさ」という心情を説明する答

案の文末表現として妥当であると判断できれば広く許容して可。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問三 14点

■形式上の不備

・ 文末表現は要素G参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○2点

B○3点

C○2点

何の眺望もない夜の観潮楼で簡素な調度などを眺めて鷗外の文学や性行を思量し始めた時、いきなり響いた鐘声をきっかけに、市街の燈火の輝きが目に入り、車馬の響が大きく聞こえ、この楼で創作にふける鷗外

D○2点

E○2点

F○3点

G

とパリのパンテオンの壁画の中の神秘的な聖女と重なったから。 (14点)

■要素A「何の眺望もない夜の観潮楼で」…2点

・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・ 「観潮楼」ということだけが示されているなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

・ 「何の眺望もない夜の観潮楼で」という場面の代わりに、「部屋の隅に堆く積まれた蔵書を見て」など、考え始めたきっかけが書かれていればそれでもよい。

■要素B「簡素な調度など眺めて鷗外の文学や性行を思量し始めた時」…3点

・ 「簡素な調度など眺めて」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

- ・「性行」を「性向」としている場合は2点。
- ・「性行」のかわりに「普段の行動」でもよい。
- ・「思量し始めた時」は「考え始めた時」でよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「いきなり響いた鐘声をきっかけに」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「きっかけ」というニュアンスが読み取れないなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「市街の燈火の輝きが目に入り」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。「市中の燈火を見下ろし」などで可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「車馬の響が大きく聞こえ」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「この楼で創作にふける鷗外とパリのパンテオンの壁画の中の神秘的な聖女とが重なった」…3点

- ・鷗外の姿とパンテオンの壁画の聖女が、神秘性という点で重なったということが読み取れるなら広く許容して可。
- ・鷗外という存在に神秘性を感じたということだけが説明されている場合も可とする。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 文末表現は「…から…ので…ため」といった形が原則。理由説明の答案の文末として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問四 8点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A〇2点

B〇2点

C〇2点

読みもしない書物を並べて空疎な知性を誇示するような人間とは異なり、屏風の陰に西洋の書物を積

み上げる奥ゆかしさに鷗外の本物の知性が垣間見えるということ。

E

■要素A 「読みもしない書物を並べて」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B 「空疎な知性を誇示するような人間とは異なり」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば、広く許容して可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。単に「自慢する」というような表現は1点。

■要素C 「屏風の陰に西洋の書物を積み上げる奥ゆかしさ」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば、広く許容して可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「鷗外の本物の知性が垣間見える」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば、広く許容して可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。「素直で見栄をはったりしない」などは1点。

■要素E 文末表現は「…(という)こと」という形が原則。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問五 12点

■形式上の不備

- ・ 文末表現は要素F参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○3点

B○2点

文学者としての鷗外は、筆者にとつて神秘的でさえある偉大な存在だが、現実の鷗外は生活も質素で、

C○2点

D○2点

E○3点

気さくで飾り気のない人物であり、その落差が微笑ましく感じられ、そのような鷗外に好感と畏敬の念を抱

F (文末)

いている。

■要素A「文学者としての鷗外は、筆者にとつて神秘的でさえある偉大な存在」…3点

- ・ 「文学者としての鷗外には神秘性を感じている」というニュアンスが説明されていると判断できれば可。

- ・ 「神秘的」に相当する説明がなく、ただ尊敬しているということだけが説明されている場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「現実の鷗外は生活も質素で」…2点

- ・ 鷗外の生活の質素さに相当する説明があれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「(現実の鷗外は)気さくで飾り気のない人物であり」…2点

- ・ 「気さくで飾り気のない」に相当する説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「その(≪文学者と現実の)落差が微笑ましく感じられ」…2点

- ・ 文学者としての鷗外と現実の鷗外の落差に相当するニュアンスの説明が答案のどこかにあれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。単に「ギャップがある」だけでは1点。

■要素E「鷗外に好感と畏敬の念を抱いている」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「好感」と「畏敬」のいずれかに相当する説明を欠いている場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 筆者の思いを説明する答案の文末表現として妥当であると判断できれば広く許容して可。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

※内容説明の設問では、末尾の句点がないものは1点減点。ただし、現代語訳の設問では、文末の句読点は不問。

問一 10点

【模範解答】

C〇2点

『大和物語』の歌では、「姨捨山に照る月」をみた(詠者である)甥が、自身の行為を恥じて伯母を連れ戻しに行ったことになっているが、

B〇3点

D(③)

『更級日記』の歌では、詠者である(叔母が、自身の住居を「月も出しておらず暗闇な姨捨山」と喩えていて

A〇3点

D(②)

、珍しく訪問してくれた甥に対してどうしてこんな夜にかぎって訪ねてくれたのかということを訪ねている。

D(①)

D(②)

D(③)

D〇2点…「更級日記(＝A歌)は、叔母(である作者)が、甥に対して、闇夜に詠んだ歌」

■採点のポイント

- 解答欄が5行あるので、解答の文が複数(2文以上)になってもよい。
- A～Dの各配点部分の中の、それぞれ加点要素が揃っていれば、それぞれの配点を加点する。
- 加点要素が答案の中に表記されており、A～Dの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

■各加点要素の加点の条件

A 「甥に対してどうしてこんな夜にかぎって訪ねてくれたのかということ」を訊ねている。(3点)

※Aの歌がどのようなことを言っているのかの解答の中心部分。

※傍線部の加点要素に加点するが、前提として、「(更級日記の) 作者(≡A歌の詠者は)は」「という部分を間違って捉えている書き方の場合、加点しない。

加点ポイント

(更級日記の) 作者(≡A歌の詠者は)は 甥が自分のところをどうして訪ねてきたか(を訊ねている)。

○ 「甥」は、甥とわかる記述であればよい

③

○ 「自分のところ」は、「叔母の家」・「叔母の住居」などでもよい。

○ 「どうして訪ねてきたのか」は「訪問した理由」を訊ねている ということがわかる記述であればよい。

B 『更級日記』の歌では(詠者である)叔母が、自身の住居を「月も出ておらず暗闇な姨捨山」と喩えていて

(3点)

※「更級日記」の歌の「姨捨山」の説明。以下の2通りのどちらの解釈でも○。それぞれ①②の要素が必要。

※傍線部の加点要素に加点するが、前提として「更級日記」の歌の「姨捨山」の説明として書かれていない場合は加点しない。

加点ポイント

(更級日記の) 作者(≡A歌の詠者は)は 自分のところ(≡叔母の家・叔母の住居)を

①

(大和物語の・更級の・姨捨山伝説の) 姨捨山に例え(≡なぞらえて)て、

②

【別解】

(更級日記の) 作者(≡A歌の詠者は)は 自分を

①

(大和物語の・更級の・姨捨山伝説の) 姨捨山に捨てられた女に例え(≡なぞらえて)て、

②

C 『大和物語』の歌では「姨捨山に照る月」をみた(詠者である)甥が、自身の行為を恥じて伯母を連れ戻しに
行ったことになっているが、(2点)

※ 「大和物語」の歌の「姨捨山」の説明。以下の①②の2点に加点するが、前提として「大和物語」の歌の
「姨捨山」の説明をしていない場合は加点しない。

加点ポイント

大和物語(の歌)では、(姨捨山に照り輝く)月を見て、甥(甥とわかる記述であればよい)が伯母を連
れ戻したことを詠んだ歌になっているが、

▲①②のどちらかが抜けている場合は△1点とする。

○ 「大和物語(の歌)は、月を見て、甥が詠んだ歌」であるということが記述されていれればよい。

D 「更級日記(ⅡA歌)は、叔母(である作者)が、甥に対して、闇夜に詠んだ歌」(2点)

※更級日記の歌は、誰が誰に対してどういう状況の下で詠んだ歌かの説明。以下の①②③に加点するが、前
提として「更級日記の歌」の説明と取れない場合は加点しない。

加点ポイント

更級日記(ⅡA歌)では、叔母(である作者)が、叔母のことを顧みなかった甥に対して、闇夜(Ⅱ月の出
ていない夜)に詠んだ歌になっている。

▲①②③の要素のいずれか1つが抜けている場合は△1点とする。(2つ抜けている場合は不可✕。)

問二(10点)

B 「今は世にあらじものと思ふらむ。あはれ、泣く泣くなほこそはふれの現代語訳。

【模範解答】

A ○3点

B ○3点

(あなたは)私(私)のことを今となってはもう、この世に生きていないものと思つていひつゝしやるのぶじようか。

C ○4点

ああ、それでも私は泣きながら今もなお生きながらえているのです。

■採点のポイント

○ 作者の「ねむころに語らふ人」に対しての贈歌となっており、解答欄も3行設けられているので、主体「私」「あなた」は補うこととする。

○ 加点要素が答案の中に表記されており、A～Cの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、例えば「私」などが、重複して記述されていなくてもよい。

○ 和歌の解釈なので、敬語を添加してもよいし、なくともよいこととする。

▲ 三句切れの歌なので、その現代語訳は二文となる。二文になっていない場合、全体から▲2点減点。

■各加点要素の加点の条件

A 「あなたは私(私)のことを(今)となってはもう、この世に生きていないもの」と「(3点)

※ 「今は世にあらじもの」の現代語訳。以下の3つの部分に配点。ただし②のみでは得点できない。

加点ポイント

① 1点

② 1点

③ 1点

(今)となっては(もう)、私(私)の(私)のことを(は)この世に生きていない(死んだ)ものと

※ 「この」に「世にあり」は、前に「かうて後おとられぬ」「下に」経(ふ)「とある(ことから)」「この世に生きていく」ことと考えられるが、「世にあらじ」で「出家してしまったのだらう(尼になってしまったのだらう)」「とする答案もあると考えられる。そのような答案に関しては、Cの「ふれ(経れ)」「が」「俗世で過(して)しております」等となっているもののみを正解とする。

B「と思っていらっしゃるのでしょうか。」(3点)

※「とや思ふらむ。」の現代語訳。以下の2つの部分に配点。ただし、①のみでは得点できない。

加
点
ポ
イ
ン
ト

① 1点 ② 2点

…と、あなたはは(今ころ)思っていらっしゃるのだらう(=るのでしょう)(か)。

○敬意の有無は問わない。

C「ああ、それでも私は(泣きながら今もなお生きながらえているのです。)(4点)

※「あはれ、泣く泣くなほこそはふれ(経れ)」の現代語訳。以下の4つの部分に配点。

加
点
ポ
イ
ン
ト

① 1点 ② 1点 ③ 1点 ④ 1点

ああ、それでも私は泣きながら 今もなお(/やはり/依然として) 生き(ながらえ)ているのです。

問三 (10点)

※「ひまもなき涙にくもる心」とはどのような心かを説明する。

【模範解答】

C〇3点

夫の死後一年が経過しようとしているが、昨年と同じ頃の月を見ると、あふれる涙で目の前も暗くなり、

B〇3点

A〇3点

D〇1点

そのときのこと まるく夢のようだ 記憶も定かでなくなっている 作者の心理状態。

■採点のポイント

○ 加点要素が答案の中に表記されており、A～Dの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、加点要素が重複して記述されていなくてもよい。

○ Cの和歌を受けて、直後に心情が説明されているので、そこを踏まえていること。

「年月は過ぎ変はりゆけど、夢のやうなりしほどを思ひ出づれば、心地もまどひ、目もかきくらすやうなれば、そのほどのことは、まださだかにもおぼえず。」

○ 作者の記憶は、「夫が亡くなった当時の記憶」でも「夫の死後一年間すべての記憶」でもよしとする。

■各加点要素の加点の条件

A「記憶も定かでなくなっている」(3点)

※ 心情の中心部分。直後の説明の「さだかにもおぼえず」。

加点ポイント

(夫が亡くなった一年前のことも) 記憶も定かでなくなっている (「ただ呆然としている／茫然としている」)

B 「まるで夢のようで」 (3点)

※直後の説明の「夢のやうなりしほどを思ひ出づれば」。

(夫の死後一年が経過しようとしているがそのときのことも) まるで夢のようで、

○ 「夢のよう」の部分があれば○。

C 「あふれる涙で目の前も暗くなり」 (3点)

※傍線部の「ひまもなき涙にくもる」、直後の説明の「心地もまどひ、目もかきくらすやうなれば」。

以下の①②の2つの部分があること。①もしくは②のどちらかの場合、△2点とする。

加点ポイント

①

(途方に暮れ) あふれる涙で (＝号泣し／涙がとまらず)

②

目の前も暗くなり (＝暗澹となり／悲しみに暮れて／悲しみが晴れず)、

D 「心理状態。」 (1点)

※設問「どのような心か」に対応する文末処理。

(作者の) 心理状態 (＝感情／心)。

※これは「説明せよ」という設問の文末であるから、句点。「」のないものは減点1点とする (この配点は0点になる)。

(2)「しげりゆく蓬が露にそばちつつ」(10点)

【模範解答】

A○3点

B○3点

C○4点

私は、ますます雑草が生い茂り、荒廃してゆく我が家の雨露に濡れながら、そしてあふれる涙に濡れながら、

■採点のポイント

○「蓬が露」の注に「『蓬が宿の露』の意味。…『蓬が宿』とは『雑草が生い茂り荒れ果てた家』のこと」とあるので、この解釈を採用する。つまり、「しげりゆく蓬」が「露に濡れる」のではない。返歌でも「世のつねの宿の蓬を。(＝俗世の、ごく普通のお住まいなのになあ)」と、「世のつねの宿の蓬」が「そむきはてたる庭の草むら(＝すっきり俗世から離れて尼として暮らしている私の暮らし)」と対比して使われている。

よって、正しくは「雨露に私は濡れながら」であるが、今回は、「露に雑草(＝蓬)が濡れながら」でもよしとする。

○和歌の解釈なので、敬語を添加してもよいし、なくともよいこととする。

○A～Cの各配点部分の中の加点要素が揃っていれば、それぞれの配点を加点する。

▲作者の、「久しうおとづれぬ人＝尼なる人」への贈歌となっており、「言葉を補いつつ」とあるので、主体「私」を補う。解答のどこにも入っていない場合、全体から▲1点減点。

○加点要素が答案の中に表記されており、A～Cの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

■各加点要素の加点の条件

A「雑草が生い茂り」(3点)

※叙景部1 「蓬がしげりゆく」の内容。

加点ポイント

ますます雑草(＝蓬)が生い茂り、

B「荒廃してゆく我が家の雨露に濡れながら」(3点)

※叙景部2 「そんな『荒れ果てた家』の露にそばちつつ」の内容。以下の3つの部分に加点(各1点)。ただし、②のみでは得点できない。また、①は「荒廃してゆくわが家」にあたる部分がなければ加点しない。

加点ポイント

- ① ② ③

荒廢してゆく我が家の雨露に、私は 濡れながら、

「別解」 ① ② ③

荒廢してゆく我が家の蓬は、露に 濡れながら、

C 「あふれる涙に濡れながら」 (4点)

※主想部 「『蓬がしげりゆく』そんな『荒れ果てた家』で、『私』は『涙にそぼちつつ』の内容。

以下の3つの部分に加点(各1点)。ただし、③にあたる部分が無い場合、①②だけでは加点しない。

加点ポイント

- ① ② ③

(そして) あふれる涙に私は濡れながら、

○ 接続助詞「つつ」は、「…ながら」でも「何度も…しては」でもよい。

× 「現代語訳」の設問なので、「私は涙を流している」は不可とする。

(3) 思ひやれ。そむきはてたる庭の草むら。(10点)

【模範解答】

A ○4点

B ○3点

どうぞ思ひやつてくださるよ。まだ俗世にとどまっているあなたと違い、すっかり俗世から離れ、

C ○3点

一人の尼として暮らしている 私のことを。

■採点のポイント

○ 三句切れの歌であり、また倒置された文なので、その現代語訳は二文となる。倒置をなおして一文にして現代語してもよい。

○ 和歌の解釈なので、敬語を添加してもよいし、なくともよいこととする。

○ A～Cの各配点部分の中の、加点要素が揃っていれば、それぞれの配点を加点する。

▲ 「久しうおとづれぬ人ニ尼なる人」の、作者に対しての返歌となっており、「言葉を補いつつ」とあるので、主体「あなた」と客体「私」を補う。解答のどこにも入っていない場合、全体から▲1点減点。

○ 加点要素が答案の中に表記されており、A～Cの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

■各加点要素の加点の条件

A 「思いやってくださいよ」 (4点)

※倒置された述語部分 「思ひやれ。」の現代語訳。

加点ポイント

(どうぞ／どうかあなた)、(私のことも) 思いやってくださいよ (＝思いやつてはくさいませんか)。

B 「すっかり俗世から離れ、」 (3点)

※倒置された客体の連体節 「そむきはてたる」の現代語訳。

加点ポイント

(まだ俗世にとどまっているあなたと違い) すっかり俗世から離れている (＝出家して／尼となっている)

C 「尼として暮らしている 私のことを」 (3点)

※倒置された客体 「庭の草むら」の現代語訳。

加点ポイント

私 (＝尼) のこと (生活／暮らし) を (も) 。

○三句切れの歌であり、また倒置された文であるが、倒置をなおして一文にして現代語してもよい。その場合は、次のようになる。

「(まだ俗世にとどまっているあなたと違い) すっかり俗世から離れ、一人の尼として暮らしている私のことをも、どうぞあなた、思いやってくださいよ。」。

このような答案に対しても、A～Cの各配点部分の中の、加点要素が揃っていれば、それぞれの配点を加点する。

以上。